

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 1 月 24 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492500149
法人名	有限会社トッツ
事業所名	グループホームふぁみりい豊栄
所在地	広島県東広島市豊栄町鍛冶屋908 電話 082-420-3313
自己評価作成日	平成 26 年 12 月 25 日
評価結果市町受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島
所在地	広島市東区福田1丁目167番地
訪問調査日	平成 27 年 1 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・1人1人を家族と思える様、日々笑顔を忘れない様に努めている・何を考えられているか、どうして欲しいのかうまく伝わらない人にもどうしたらいいのかそれぞれが自分成りの考えを持って接していく。・職員会議で決めた項目については、共通の意識で行動する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>開設4年目を迎えた当ホームは、1ユニット9名の定員で少人数のグループホームである。同じ建物にデイサービスが併設されており、1階建てで全てバリアフリーとなっている。敷地には庭園、外には田園が広がり、良い景観の中にある。また、旧豊栄町の中心地に立地しており、地域からの交通の便が良いところである。</p> <p>職員は理念に沿ったケアを実践し、「利用者のどんな話でも聴こう」「その人を知りたい」という思いでケアにあたっている。</p> <p>職員の大半が豊栄町在住である。地域とのさらなる連携が期待されるホームである。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員の意識向上につながっていると思える。	開設時に職員で作上げた理念は「優しさと笑顔を持って利用者と触れ合い、一人ひとりがプロとしての自覚を持ち、地域の皆様のニーズに応えられるよう努力します」である。申送り時や職員会議・ミニカンファノートなどで折に触れ、職員の意識や行動が理念に沿ったものとなるように確認しあっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	防火訓練を始め地域の行事に出来るだけ、1年を通して参加をする様に努めている。	敬老会には加茂高校プラスバンド部の慰問がある。また、三味線や舞踊のボランティア慰問がある。町内で開催されるへそ祭りや町内にあるリンゴ園・パン工房での食事など、地域へ出かけ交流している。今後は地域センターでの認知症勉強会や地域の銀行ロビーで利用者の作品展示等を検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内に有る各地域センターに不定期ではあるが、発刊物を配布させてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度当事業所で毎月の報告や行事等を説明し、各出席者に意見を伺っている。	偶数月に開催している。事業所から行事報告や今後の予定を話し、出席者からは地域の様子を、駐在所員からは高齢者に関わる事件・事故を話してもらい、情報交換の場となっている。メンバーは家族・自治会副会長・自治会協議会役員・民生委員・市職員・駐在所員である。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議を通して、意見を伺ったり、認知症に対するアドバイスをしてもらっている。	運営推進会議には毎回市職員の出席があり、その都度意見交換や事業所の現状を話している。疑問点があれば電話で問い合わせしている。また、市から研修・講習会の案内があり、可能な限り出席している。町内の各地域センターへ法人並びに事業所の新聞を配布している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	理解し、実践している。	法人講師による身体拘束についての研修を行い、職員はよく理解している。日常のことは違いや転落防止のベッド柵などについて、職員どうしアイデアを出しながら、また家族とも相談しながらケアにあたっている。玄関は日中常時オープンにし(冬でも網戸のみ)、リビングの出入口も見守り・付添のケアを実践しオープンにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月全職員一同で研修を受けている。その中で虐待についても学んでおり、日々の仕事に生かせるよう、ミニカンファレンスをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	多方面の研修や勉強会の中で学ぶ機会を持つ様になっているが、未だ十分活用するには至っていない。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	実行している。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	契約書の中に外部機関への意見を述べる事が出来る様、作成されている。又運営推進会議をその為に実行している。	全利用者家族の面会があり、多い方は週に数回、少なくとも月1回の面会がある(毎月の受診結果報告や利用料直接納入)。面会時には職員が利用者の様子を伝え、家族から意見や要望があれば全職員で共有し、ケアに活かしている。	家族へはこまめに疑問点はないか積極的に伺い、家族の不安や疑問点を解消されるよう望みたい。
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	毎月職員会議を開き実直な意見を聞くようにしている。	毎月の職員会議は進行役を職員に任せ、職員中心の会議となるようにしている。管理者は職員が意見を活発に出せるよう心掛け、必要なら本社の管理者会議へ意見を上げ、運営に反映させている。カンファノートに「その日の気づき」「ケアの良かった点」等を記入し合い、共有している。	管理者が代わってまだ日が浅いせいもあるが、管理者と職員、また職員どうしのコミュニケーションがうまくかみあってないよう見受けられる。家族から出された要望なども全職員で共有し、統一した意識でケアが行われるよう期待したい。
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	職員会議や研修を通して各自が向上するように努力している。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	月に1度は研修を同事業所系列により講義してもらっている。それを基に自分自身の力量を推察している。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	近隣で開催される研修会では同地域内の同事業所の方が、多く参加されるのでお互いに共有関係ができていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	直接本人と対話出来るなら入所以前に家族を交えアセスメントをとり合い不安を解消するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所以前に家族と入所されてからのケアプランをケアマネージャーの仲介により作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人もしくは家族より、何を望まれているかを聞きだしそれに向けて、最善策を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	同じ空間内で、家族より長い時間を共にしている者として、信頼してもらえるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会等来所されたときには、最近の状況を的確にお話し、身体的な車についても相談しあえるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族より制約のない限り、自由に出入りして貰っている。ときには、外出機会を設け、気分転換されている。	家族・親戚はもちろん、併設デイサービス利用中の友人や地域の方の面会があり、歓迎している。手打ちそばで有名な豊栄ならではのそば処や地元で桜の名所である白竜湖などへ外出している。個別の馴染みの場へは、家族の協力を得ながら訪れるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	家事を含め、男女に関係なく出来る事は協力してもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所された家族の方より、要請があれば、いつでも相談に応じられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1人1人を尊重し、入所以前の様な生活が営める様、又主治医意見を参考に取り組んでいる。	利用者・家族から生活歴や昔の話を聞き、記録している。日々のケアの中では何気ない会話の中から出される思いを聞きもらさないようにし、介護記録にとどめている。職員間で共有し介護計画見直し時に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	何が出来て、何が出来ないかをそれまでの情報を踏まえて上で、サービスに生かせるように実行している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者1人1人に担当者を決めそれぞれの職員に責任を持たせる事により、注視する様心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画作成に於いては、必要におおじて家族の方と一緒にプラン作成に協力して頂いている。	利用者・家族から要望を聞き、医師・職員の意見を取り入れた介護計画を作成している。ケア会議にはできる限り家族にも参加してもらっている。担当職員が1か月毎のモニタリングを行い、必要に応じて見直しをなされ、現状に即したものとなるよう改善されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者1人1人について介護記録を毎日記入して職員同士で仕事の軸とし、必要な時にはミニカンファレンスをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	出来る限り、要望に応えられるよう、柔軟な対応をする様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営会議を通して地域の方々より意見を出してもらい、活用できるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	継続した主治医の元で、定期的な受診を行い体調管理に努めている。	利用者が入所前から受診しているかかりつけ医の継続受診を支援している。受診は職員が付き添う場合もあり、後日必ず家族へ受診結果報告を行っている。緊急時には近所の協力医に、24時間対応してもらえる体制にある。。また、週2回の訪問看護師による健康チェックや、訪問歯科医による定期的な義歯調整も行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員自身で判断できない状況の時、素早く看護職員や訪問看護師に相談し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供については、全てについて持ち得る内容を伝えて行こうと思っているが、未だ力強い関係ができてはいない。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本社より、家族の方に重度化及び終末期についての指針の同意確認がとれているので、事業所としていっそう取組を強化していこうとしている。	契約時に「重度化・終末期における指針」を示している。今後は職員の意識付けや教育を行い、医師と連携しながら重度化・終末期に向き合っていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年2回防火訓練の際、消防署の方から応急手当や初期対応の指導をうけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防火訓練をする時には職員・利用者が一体となって避難できる様になっているが、消防の方より、反省点をだしてもらい技術向上にむけて、地域のかたにもよびかけている。	消防避難訓練は年2回、消防署立会いの下実施している。訓練には近所の方へ事前にお知らせし、参加してもらっている。町内在住職員が多く、災害時にはすぐにかける体制ができている。今後は水害等の防災訓練・対策にも力を入れる予定である。	災害時緊急連絡網に自治会や消防団の方に入ってもらい、地域の協力をさらに得られるよう期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介護職としての基本であるがゆえ当然ではあるが、時として、そうでない場合が未だみられる。	呼ぶ時は必ず「～さん」付け、入室時にはひと声かけてから、何かする時はその人に向けて伺い同意を得てから行う等、職員の意識を徹底させている。職員にとっては仕事場でも利用者にとっては「家」であることを忘れず接している。個人ファイルは事務室の鍵付き書架に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	選択の自由、自己決定ができるような環境作りがなされている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の利用者にあった無理のない生活をしてもらうように職員の気遣いが浸透する事業所にしていこうとしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族からの情報を参考にして、本人好みに合う様、服装等には気を付けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の手助けを時にはしてもらい、体調に気を配りながら年に数回行事に外食も加えている。	汁物・ご飯は事業所で調理するが、あとは配食サービスを利用し、職員がケアに専念できるようにしている。行事食や季節のメニュー・誕生日ケーキやおやつ作りなど、利用者と職員と一緒に作るメニューも取り入れている。箸・スプーンは使い慣れた物を使用してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分等毎食事チェックし、変化におおじて職員同士で意見交換している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	義歯を夕食後はずしています。又歯磨き、うがいを毎食後できるだけしてもらえる様支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	声掛けにより、その人の習慣にあわせてトイレの見守りや、付き添いをしている。	水分摂取・排泄記録をとり、適切な声かけ・誘導を行い、できるだけトイレでの排泄を支援している。夜間はその人に合った睡眠を優先させるが、声かけ誘導を希望する方・必要な方、ポータブルトイレを利用する方、朝まで眠ってもらう方など、様々である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	現状での便秘対策は薬での対応や訪問看護による処置が中心である。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	現状で入所されている利用者の大半が自分の意志表示が困難である為誘い掛けを午後としている。入浴の有無は本人の自由である。	風呂好きの方がほとんどで、医師からの特別な指示がない限り、ほぼ毎日気持ちよく入浴してもらえるよう支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ほとんどの利用者は自ら入室して入眠されているが、一部のかたは誘い掛けが必要である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診時に必ず主治医の言われた事をメモし、くすりについても薬局で出された時の説明を必ず情報として記帳することにし、職員に目を通す様促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々に合った家事や趣味を通して、生きがいになる様支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	1年の行事の中で外出する機会を出来るだけ多くするように考え地域の行事にも参加するようにしている	現在自立歩行できない方がほとんどで、職員数がぎりぎりの状態にあり、毎日散歩に出かけることは不可能である。しかし駐車場に出て庭を眺めたり、玄関のベンチに腰掛け外の空気が吸えるよう支援している。花見や近場のドライブ・外食など、できるだけ外出機会をつくっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	当施設では利用者自身お金を持たれていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	当施設の利用者自身ではそのような事は出来る人がいないため、面会時の会話とさせて頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	職員と一緒に落ち着いて生活できる空間作りを利用者と築いている。毎月壁飾りなども変えて作成している。	食堂兼リビングは明るく広く、清潔に保たれている。毎月テーマに沿った壁面装飾を職員が考え、利用者と一緒に製作している。季節感いっぱいやさしい雰囲気に包まれたリビングになっている（これまでの作品を地域の銀行ロビーに展示予定である）。 トイレ・廊下は広く、車イスでも十分通れる広さがある。長い廊下では歩行訓練が行われ、途中で庭を眺めながら休憩できるようソファが配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの位置を変更したりして、1人1人の時間が持てたり、複数での会話ができる様心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	以前使用されていた物等を家族の方より持参していただき本人好みの空間になるように努めている。	居室は全て、南向きで明るく、清潔に保たれている。整理ダンス・クローゼットが備えてあるが、あとは馴染みの物を持ち込んでもらっている。ベッドはレンタルもできる。利用者が作った作品や塗り絵・写真を飾り、馴染みの物を持ち込んで、安全かつ居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	歩行手段としての杖や、シルバーカー等を利用されていることにより、自立した生活を少しでも多くしていただいている。手すり等も同じである。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

3 サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。
「目標達成プラン」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活用状況についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	① 運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	② 利用者へのサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③ 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④ 運営推進会議でサービス評価を説明するとともに、どのように評価機関を選択したかについて報告した
		<input type="radio"/>	⑤ その他 ()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	① 自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	② 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③ 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④ 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤ その他 ()
3	外部評価（訪問調査当日）	<input type="radio"/>	① 普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	② 評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③ 対話から、事業所が努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④ その他 ()
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	<input type="radio"/>	① 運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	② 利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③ 市町へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④ 運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤ その他 ()
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	① 職員全員で次のステップに向けた話し合い、「目標達成プラン」を作成した
		<input type="radio"/>	② 「目標達成プラン」を利用者、利用者家族や運営推進会議へ説明し、協力やモニター依頼した（する）
		<input type="radio"/>	③ 「目標達成プラン」を市町へ説明し提出した（する）
		<input type="radio"/>	④ 「目標達成プラン」に則り、目標を目指して取り組んだ（取り組む）
		<input type="radio"/>	⑤ その他 ()

2 目標達成計画

事業所 グループホームふぁみりい豊栄

作成日 平成 27 年 2 月 18 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価をもとに職員一同で次のステップへ向けた取り組み目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎにならないよう、事業所の現状に合わせた取り組み課題を取り上げ、優先順位を決め目標達成に向けた具体的な取り組み内容を記入してください。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	家族へはこまめに疑問点はないか積極的に伺い、家族の不安や疑問点を解消されるよう望みたい。	家族との連絡を密に行い情報交換を図られるように努力する。	家族様と交換帳の様な物を作り、お互いの意見交換をしていく。	行事等の取り組みを一緒に送付するようにすることを考える。1ヶ月～2ヶ月
2	7	管理者が代わってまだ日が浅いせいもあるが、管理者と職員、また職員同士のコミュニケーションがうまくかみあってないように見受けられる。	朝の挨拶と理念の三唱を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議 職員面接を行える様時間を設ける 	毎月1回もしくは話合いの要望がある時は、随時行う。
3	13	災害時緊急連絡網に自治会や消防団の方に入ってもらい、地域の協力をさらに得られるよう期待したい。	自主防火、防災及び地域協力。	年2回の訓練の参加を広く呼びかけ、災害時の避難場所としても活用して頂きたくよう広報に努める。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。